



2025.6.20 第 145 号

年金局・「隠退教師を支える運動」通信



ト部 康之 先生

倉敷市内の教会にいた頃、市内に倉敷マスカットスタジアムがあった。星野仙一さんの地元ということもあり、当時は阪神タイガースの主催試合がよく行なわれていた。プロ野球観戦もさることながら、夕陽が沈んでいく様子と徐々に明るさを増すナイター照明の交差が今も目に焼き付いている。

北海道に来て17年。札幌

エスコンフィールド北海道で

お会いしましょう

教区代表理事 ト部 康之

ドームには何回行っただろうか。当時、先輩牧師のお嬢さんがアルバイトでビールの販売員をされていて、何度も買わされた楽しい思い出もある。

僕はどこかで任地の近くに球場があることを望んでいるのかもしれない。「パパはまた野球を見てる」と子どもから飽きられているが、旧制今治中学野球部だった父親に育てられたので仕方がない。

* * *

さて、北海教区の近年。当教区において、財政も教勢も右肩下がりとなつて久しい。北海教区全体の現住陪餐会員は、過去5年間で毎年約70名

の減少傾向にある。その数字は中規模教会が毎年ひとつなくなっている計算になる。コロナ禍は過ぎたが、各教会が元のように戻って活動できるかは容易ではない。

また、教区負担金。大規模教会は経常収入の約19%、中規模教会は約11%、小規模教会も約5~10%に及ぶ。そろそろ負担金の抜本的な改革を誰もが期待していると思うが、打開策に困難を覚えているのが現状と言える。

教会というところの長所であり短所でもあること。それは「大きく変わることが出来ない」ことではないだろうか。

補足説明をすると、負担金の中には「自立連帯献金」という教区謝儀保障制度の原資となるものが含まれている。

しかしながら、北海教区の信徒は教会のみならず、地区や教区のために本当によく献げてくださる。これはお世辞でも何でも無い。年頭修養会等の研修会を大切に積み重ねてきた教区だが、ある信徒が「連帯にはお金と学びが必要」と力説していた。

そのような動静の中、近年特に忘れてはならないことがあると感じている。それは、教区執行部の献身的な働きと共に「隠退教師の復帰」ということである。

経験豊富なベテラン教師。それは宣教面での引き出しの広さに助けられることに加えて、公的年金を受けながらの赴任という側面もあるため、当然教会財政にとつても助かるのである。教師自身は「老体に鞭打って」と笑ってはいるが、どこか活き活きしてい

ると感じるのはわたしだけだろうか。

つまりは、ひとりの教師の教会現場への復帰が教会のみならず、結果的に地区・教区の活動を下支えする働きとなっている。

このような状況を踏まえ、第42回教団総会「教規132号変更に関する件」の議案につながっていったと思われている。

* *

北海道の桜の花は約一週間で散ってしまう。それはちょうどゴールデンウィークの時期でもある。約三か月間、桜は雪の季節を過ごしつつも、地下で咲くための準備をしている。ある意味、「辛抱して輝く」のである。

北海道の桜と信仰生活の姿を重ね合わせること果たして乱暴だろうか。

学生時代にお世話になった美藤章牧師（1940～2011）のお連れ合いから、献金と共にお手紙をいただいた

た。「喜びのイースター、春の到来です。（中略）ささやかですが、献金を送らせていただきます。トラファンとしては一喜一憂の季節の到来です」。

今年の秋は、ファイターズとタイガースの日本シリーズを見に行きましょう。エスコでチケットを取っておきますね。
（うらべ やすゆき
／北海・千歳栄光教会牧師）

「隠退教師を支える運動・1000円献金」…… 隠退教師の顔を 思い浮かべながら

北海教区推進員

佐久間 光昭

2022年の年末、原和人北海教区総会議長から「隠退教師を支える運動推進委員会の推進員を引き受けてほしい」との依頼があり、翌年1月から推進員に加わらせていただきました。同委員会の存在と活動は知っていました。が、私は、あまり深い関心を持たずに献金を捧げてきました。推進員を拝命してから半

年後の7月、新任推進員研修会がZoomで開催され、信徒運動である「1000円献金運動」が、北海教区の旭川豊岡教会壮年会の提案（1973年）がきっかけとなり、76年の北海教区総会決議を経て78年の教団総会で決議されたことを、恥ずかしながら初めて認識しました。そして、長年にわたり宣教に生涯を捧げら

れた隠退教師の生活保証の大切さを、改めて痛感しました。昨年と今年の北海教区総会で、議員各位に「100円献金」と「謝恩日献金」の意義をアピールしました。特に「100円献金」は、北海教区の提案からスタートしたことを強調するとともに、車の両輪である二つの献金の違いを説明し、未実施の教会への



佐久間光昭さん

協力を依頼しました。

兼牧や代務などで複数の教会を担当する教師が増え、幼稚園などとの兼務者は休暇が取れないなど、その業務はいつそう激化し、体調を崩す教師が増えています。教師の皆さんの健康は、すべての信徒の共通の願いです。教団財政も各教会財政も厳しい状況

ですが、隠退教師が安心して老後の生活を送り、現役の教師も安心して宣教するためには、安定した年金制度が不可欠です。

25年度北海教区総会議案の名簿には、20人の隠退教師の氏名が掲載されています。その中には、置戸教会の代務者として支えてくださった教師をはじめ、北海教区や道東地区で宣教をされていた方々のお名前があります。懐かしく思い出すとともに、皆さんの老後のご健勝をお祈りしながら名簿に目を通しました。

隠退教師を支える運動は、すべての教師の老後を支えるためですが、私は、お世話になった隠退教師、共に歩んだ隠退教師お一人おひとりの顔を思い浮かべながら、その方たちへの思いを込めた「顔の見える献金」をする気持ちが大切であると感じています。一人ひとりの信徒が、感謝と願いを込めて「顔の見える献金」を捧げることが、教団全

体の運動として広がることになり、運動全体を身近に感じることになると思います。

推進員として、今後も隠退教師を支える運動に、微力ながら関わることができればと思っています。

(さくま みつあき／置戸教会)



業 務 室 よ り

一年金を受けている方へ 年金給付のお知らせ

7月の定例給付のご案内をします。

送金内容 2025年度第1期分給付
(2025年4・5・6月分)

送金日 2025年7月10日(木)
期日に、ご指定の金融機関に入金されていない場合は、ご連絡ください。

次回送金 2025年10月10日(金)

連絡先・年金振込先の変更は、できる限り早めに、書状、Fax、e-mailの何れかで、年金局までお知らせください。

☆ 2024年度年金局事業・決算報告がまとまりました。以下、概要を感謝をもってご報告いたします。

隠退教師・ご遺族平均して705名に総額4億36百万円の年金を支給いたしました。

一方、掛金収入は約3億円でその差1億36百万円は「謝恩日献金」「隠退教師を支える運動・100円献金」資産運用益等で補われています。「謝恩日献金」の総額は3854万円が948教会から献げられました。また「隠退教師を支える運動・100円献金」は6181万円が895教会から献げられました。

詳細は、同封の「年金特集 No.81」をご覧ください。

☆ この春隠退され、教団年金受給者となられた教師の方は、現時点で24名、平均年齢は77.26歳です。再隠退された方は3名です。神さまの労いと祝福をお祈りいたします。

☆ 現況届の提出にご協力くださりありがと

うございます。経費節約のため、「計算書」と「現況届」を同送したため、混乱された方がおられたかもしれません。お詫び申し上げます。来年も同様に送らせていただく予定です。よろしくお願いいたします。

返信のはがきに添えられた労いの言葉を励みに、今後もより良い方法を模索してまいります。なお、現在も確認の出来ない方にはお手紙を同封しております。ご協力をお願い申し上げます。

☆ 業務室局員の異動をお知らせいたします。2020年9月より働きを共にしました橋詰華子は事情により昨年12月末に退職いたしました。また、今年3月より青笹都(経理業務他担当)、5月より酒井由紀子(給付業務他担当)の2名が新たに加わりました。今年度は、4人体制で業務を行います。

☆ 6年間業務室長を務めてこられた村山めぐみさんに代わり、4月よりその働きを引き継ぐことになりました本田由紀子と申します。お二人の室長の働きを側で拝見し、その重責に緊張が止まりません。祈りつつ日々の業務に努めてまいります。村山さんにはしばらく職員としてお助けいただきますが、受給者の皆さま、教区事務所、教会伝道所の皆さま、どうぞよろしくお願いいたします。

☆ そろそろ不快指数が上がり、体調管理が難しくなっております。みなさまのご健康が守られますように。

(本田由紀子)

日本基督教団年金局

〒169-0051 東京都新宿区西早稲田 2-3-18-31

Tel: 03(3202)2080 / Fax: 03(3202)2081

mail:nenkin@uccj.org

「隠退教師を支える運動」推進委員会

〒169-0051 東京都新宿区西早稲田 2-3-18-31

Tel: 03(3232)8005 / Fax: 03(3202)2081

mail:sasae100@uccj.org